



進学先

自治医科大学

医学部

赤山未留さん

桐蔭高校

インタビュー

湯川晃至
(AC 県庁前校カウンセリングスタッフ)

合格おめでとうございます。

赤 山：ありがとうございます。ちょっと不安もあるけど楽しみです。夢に1歩近づけたという感じがして、ワクワクしています。

湯 川：医学部を目指すきっかけは？

赤 山：高1の初めから目指してて。もともと身体とか病気のことに興味があったから、その興味が活かせる仕事に就けたらいいなって思って医者を目指しました。今はスポーツ医学にも興味があって。自治医科大は卒業後9年間僻地で医療に従事する義務年限がありますが、9年後にまだスポーツ医学をやりたいと思っていたらその道に進みたいです。

受験勉強をスタートしたのはいつ頃ですか？

赤 山：やっぱり部活を引退した時期かな。でも自習室には高2の時から来てちょこちょこ勉強はしていました。本格的なのは部活引退後ですね。部活をしている間はほんまに眠くて。ご飯を食べてる時もウトウトしてたぐらい疲れてました。

湯 川：どんな勉強が合格に繋がったと思う？

赤 山：定期テストは毎回ちゃんと勉強してました。テストにあわせて勉強するという習慣がついてたのかなって思います。高2の時の定期テストで、1回だけ1位をとったこともありました。自分1人で勉強するよりも誰かが勉強している環境の方が集中できるとわかったので、ACのチャレ勉にも参加していました。

湯 川：本格的に受験勉強を始めたのは部活引退後。

その時の勉強時間はどのくらい？。

赤 山：1日10時間ぐらいですね。目標は15時間って掲げてた時もあったんですけど、どれだけ頑張ってもそこまではいかんって思ってた…。でももっとやってる子はやってる。

湯 川：これは良かったっていう勉強法は？

赤 山：その日取り組もうと目標を立てている問題集を勉強機の横に全部積んで、1つずつ終わったらかばんに片づけるということをやってました。目に見えて問題集が少なくなっていくと、勉強できているという気持ちになって自信につながった気がします。

湯 川：いつも積んでるなと思ってた！それがモチベーションのアップに繋がったのかな。

赤 山：そうですね。

湯 川：逆に、もっとこうすればよかったなっていう勉強ってありますか。

赤 山：もっとACや学校の先生を頼って、添削をしてもらったらよかったなあって。模試の結果だけやったから。

受験生活で1番つらかった時期は？

赤 山：共通テストが終わった時期かな。医学部は二段階選抜(足きり)があるから共テもそれなりに点数を取らなければ、という思いがあったので、共テに焦点を合わせて勉強していたこともあって。共テ終わりは燃え尽きた感じで、その後の勉強があまり手に付かなかった。気持ちを切り替えて二次試験に向けて勉強する

のが辛かったです。

湯 川： それをどう乗り越えた？

赤 山： 自分の働いてる姿を想像したり、勉強できやんなって思ったら、誰かが勉強している学校や塾に行ってやる気を上げたり、お昼ご飯を友達としゃべりながら食べたり…みんなが勉強してる環境に自分から行って強制的にするようにしていました。

湯 川： なるほど！ちなみに、共通テスト当日は緊張した？

赤 山： 意外と、思ってたほどしなかったです。知ってる人が傍に多かったから。

湯 川： 自治医科大学を受験した時は？

赤 山： もともと自治医大が本命ではなくて、“試験慣れ”っていう意味で受けたので、それほど緊張しなかった。でも面接はやばかった、ガッチガチ！受験生１人に対して面接官が５人。みんなこっち見てるし。練習もそんなにしていなかったんですけど、代ゼミの「医学部面接ノート/ SAPIX YOZEMI GROUP」を見て、事前に自分の答えをある程度作っていたのは、よかったかなって思います。

サテライン授業はどうでしたか？ 特におすすめの講座は。

赤 山： 成績を伸ばしたいっていう思いがあったので、２年の夏休み明けから為近先生の「ハイレベル物理」の授業を受け始めました。もともと物理が好きだったのも始めるきっかけやったかな。先生の板書が丁寧かつきれいで、字やグラフ、図がとても見やすくて、毎回受講するのが楽しかったです。テキストに載っている問題は難しかったけど、先生が統一された解き方を教えてくれるので、理解できました。物理の歴史を授業の中で教えてくれるのも興味深くて面白かったです。

あとは季節講習で受けた共通テスト地理の授業が良かったです。自分で勉強していると、“１つ１つの知識を全部覚える”という感じだったんですけど、授業では、ただ単に覚えるだけじゃなくて地理にも解き方があるっていうのも教えてもらったし、覚えた知識を問題の中でどう使うかが重要、ということがわかりました。地理は苦手で、直前まで得点が安定せず不安だったけど、当日は最高得点を取れました。

湯 川： 標準化学の授業も受けてくれたね。

赤 山： 特に無機分野の得点につながりました。学校では無機の範囲は自学が中心だったので亀田先生の色鉛筆や図録を使った授業がとても役に立って。清書するのは大変だったんですが、授業を受けっぱなしにすると知識が定着しないので毎回やるようにしていました。

速読聴英語と論理国語についても 教えてください。

赤 山： 速読聴英語は、英語の文章を読む習慣になったと思います。湯川先生が、疲れた時にちょっとやるのが効果的っていうのを言ってて。疲れてる中でも英語を読むっていう力が、ついたなって思います。良かったです。論理国語は、船口先生の文章の読み方に感動しました。共テ国語の第三問の実用的な文章の読み方も教えてくれて、その解法で問題集を解くと、安

定して点数が取れたように思います。

受験生活を振り返ってみて、どう だった？

赤 山： 今振り返ったら頑張ってたなって思うけど、その最中は辛かった！（笑）でもその中で、毎日ご飯を作ってくれる母親とか、一緒に勉強する友達とか、ほんまに色々な人に支えてもらってたな、って。受験勉強中、自分のやりたいことは何なのかを考える機会が多かった。そういう意味で、受験は将来に大きく影響するものだと思います。

湯 川： 将来のビジョンはどんな風に考えていますか？

赤 山： 頼ってもらえる、悩んでることとか…何でも話してもらえる医者になりたいなって思ってる。ここの病院行ったら大丈夫、って思ってもらえるような医者になりたいなって思います。



Academy Campusはどうでしたか？

赤 山： もう１つの学校みたいな感じでした。同級生の人もいっぱいおったし、先生ともいっぱい話をしてきたし、楽しかったなって思います。『みんなで頑張ろう』っていう雰囲気があって、来るとやる気になったし。テスト期間や共テ前とか、学校が休みの日や日曜日でも、塾を開けてもらえたことも嬉しかったです。

湯 川： 後輩へのメッセージを

赤 山： 合格できても、たとえできなくても、とにかく後悔ないように頑張ってもらいたいと思います。勉強一本じゃなくて、友達との繋がりも大切にして、学校生活もちゃんと楽しんで、部活もやって、色々やってほしいなって思います。

編集後記 ～インタビューを終えて～



この年の受験生で、一番早く受験勉強を始めた生徒は誰？と聞かれると、間違いなく赤山さんの名前が挙げられます。早くから『医学部志望』と決め、部活動（硬式テニス）との両立を見事にやり遂げました。

時間があれば自習室に来て黙々と頑張る姿は、友人のみならず、後輩や、先輩たちにまで良い刺激になっていました。

高３で実践していた、自習机に大量の問題集や参考書が置かれていた時は、初めはなぜこんなに積み上げてるんだろうと思いました。理由を聞いて納得しました。

ストイックに自分を追い込み、達成したときの充実感を作るという自己プロデュースが本当に上手な生徒でした。

“何が何でも医学部に合格する”という強い意志も、３年間全く変わらず揺るがず、常に自分と向き合い、進み続けてくれました。

そしてなにより彼女には良き仲間が多くおり、その仲間と切磋琢磨した時間が、彼女を一段と成長させたのではないかと思います。

勉強する時はみんなで頑張る、休憩の時はみんなで楽しく過ごすなど、周りを巻き込んでうまくメリハリをつけていました。

大学生になっても勉強のみならず、部活や遊びなどにもしっかり取り組むと話してくれました。人間力の高い赤山さんならさらに魅力的な人間になり、きっと皆から頼られる医師になると思います。

今後も楽しみにしております！

自分の夢に向かって全力で進み続けてください！

AC県庁前校カウンセリングスタッフ 湯川晃至